

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	健康科学部看護学科の看護研究
別タイトル	Nursing Research in Department of Nursing Faculty of Health Science, Toho University
作成者(著者)	林, ひろみ
公開者	FD委員会 健康科学ジャーナル編集会(東邦大学健康科学部)
発行日	2022.03.31
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 5. p.3 9.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	総説
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohohsj.5.3
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD42088000">https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD42088000</a>

## 健康科学部看護学科の看護研究

林 ひろみ

キーワード 看護研究, 看護研究導入科目, 研究倫理

### I. 序論

2021年3月に健康科学部看護学科第1期生が卒業を迎えた。また2022年3月には第2期生の卒業を迎える。開学して4年・5年目と卒業生を無事に送り出せることは感無量の思いである。

さて、健康科学部看護学科では、4年次の専門教育科目、プレ・プロフェッショナル看護領域の科目として、「看護研究」を2単位演習科目（通年科目）として開講している。看護研究は、エビデンスに基づく看護に直接間接に影響を与える既存の知を検討および洗練し、またそのような影響を与える新しい知を創生する科学的プロセスであると定義されている（黒田ら監訳，2017）。本学部看護学科のディプロマ・ポリシーに「自然科学を看護活動の根拠とし、実践に生かす基礎的な力を有している」を掲げており、看護研究はその重要科目と捉えている。

第1期生・第2期生の看護研究の科目責任者として、看護研究をどのように準備し、実践したかについて紹介するとともに、今後の課題についても言及していきたい。

#### 1. 看護研究の学修目標

4年次開講科目「看護研究」の概要は次のとおりである（健康科学部「看護研究」シラバス，2021）。

本学の看護研究は、研究課題抽出からはじまり、研究計画書作成、倫理面の承認、データ収集・分析、そして、論文作成、さらに研究成果の発表までを一連の過程としてとらえる。学生自らが文献検討を踏まえて特定した研究課題にそって看護研究を実施する。さらに、看護研究活動を通して、各自の看護観を明確にすることを促す、ことを概要としている。

看護研究の学修目標は下記のように設定されている。

①文献検討を行うことにより研究疑問を明確にすることができる。

②研究目的や方法を明確にするために文献のレビューやクリティークを行うことができる。

③研究目的に適した研究方法を設定することができる。

④研究方法を実施するために必要な倫理的配慮を設定することができる。

⑤研究計画書を作成することができる。

⑥研究方法に基づき、データ収集およびデータ分析を行うことができる。

⑦研究結果を適切に示すことができる。

⑧研究結果を文献と照合しながら、研究目的に基づき考察することができる。

⑨指定された書式に基づき、研究論文を作成することができる。

⑩自己の研究成果を他者に分かりやすく説明することができる。

⑪他者とのディスカッションを通して、研究成果の意義、看護への応用について理解を深めることができる。

#### 2. 看護研究の準備

4年次の看護研究を開始するにあたり、3年次からの準備内容について紹介したい。

##### 1) 研究方法の基礎

「研究方法の基礎」は3年次に開講される専門基礎教育科目であり、「研究とは、人間が認識可能なあらゆる事柄の原理は心理を明らかにするために行われる知的な行為である。本科目では、人々の健康や生活に関する現象を解明するために、主な研究手法を学習し、科学的に探

究する能力を養う」ことを科目の目的としている（健康科学部「研究方法の基礎」シラバス、2021）。

#### 2) 看護研究入門

「看護研究入門」は3年次に開講される専門教育科目であり、「看護学の発展を看護の質向上を目指して、看護研究の原理と方法について基礎的知識を学ぶ。さらに、研究における倫理と看護の研究課題を理解し、研究計画書の作成方法、看護研究論文のクリティークの方法を学ぶ。」ことを目的とし、「研究方法の基礎」での学修を看護研究に発展させるものであり、4年次の「看護研究」の演習につながる科目として位置付けている（健康科学部「看護研究入門」シラバス、2021）。授業内容を表1に示す。

#### 3) 看護研究ガイダンス

看護研究の導入段階として、3年次の秋学期ガイダンスおよび1月の看護研究ガイダンスにて、下記内容についてオリエンテーションを行っている（表2）。

学生を配置するための領域・専門分野は表3のように設定している。

なお、各教員が担当する学生数、1期生（78名）においては、教授4名、准教授3名、講師3名、助教2名とし、2期生（64名）においては、教授3名、准教授3名、講師2名、助教2名とした。

#### 4) 領域配置を決定するまでの段階

領域への配置が決定するまでの段階を表4に示す。

1月の看護研究ガイダンス後に各領域あるいは専門分野ごとに学生への説明および相談会が開催される。

学生は複数の専門分野での相談の後、第1希望から第4希望までの「領域・専門分野名」、「研究課題（リサーチクエスト）」、「相談・準備状況」について学修支援システム（Moodle）にアップされたシートに入力を行うことによりエントリーしてもらう。

学生の入力内容を基にできるだけ希望に添っ

た配置を検討して決定した。

### 3. 看護研究の年間スケジュール

看護研究の年間スケジュールの全領域・専門分野に共通したスケジュールは下記のとおりである。

#### 1) 領域ごとのゼミ、分野ごとのゼミ

研究指導は、個別指導を主として行うが、指導期間のうち少なくとも2回はゼミ形式による指導を行うことを決まり事とした。ゼミの運用方法は各領域に一任された。

#### 2) 看護研究倫理審査会

人を対象とした研究においては、倫理審査による承認が必要という前提に立ち、2020年4月に健康科学部生命倫理委員会の下部組織として看護研究倫理審査会が発足した。審査者は「看護研究」の指導教員をおき、1題につき2名の審査者による迅速審査を行うこととした。

#### 3) 看護研究発表会

2019年に看護研究発表会を計画した当初は、パネルディスカッション形式の発表会を予定していた。しかし、2020年3月からの新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言（第1回目発出）をうけ、密にならない実施方法を模索することとなった。

2020年4月中旬以降から開始された遠隔授業によるKnow-howを基にZoomを用いたオンライン発表会の開催が可能か否かを模索した。また、4年生だけによる発表会にとどまらず3年生にも次年度の準備として参加することを前提とした開催方法を探っていた。全面オンライン開催による懸念の一つに、質疑応答が活発に行えるかという課題が上がった。

以上のディスカッションを踏まえて、4年生は対面による口演形式の発表会とし、3年生はZoomを用いて参加をする形式として準備を進めた。

発表形式は、パワーポイントを用いた口演とし、発表10分、質疑応答5分の1人当たり15分の持ち時間とした。

4ブースに分け、各ブースに同領域・同専門

表 1 授業計画

	項 目	授業内容・授業方法
第 1 回	文献検索方法	1. 文献検索方法 授業方法：講義・個人ワーク
第 2 回	看護学研究の概説(1)	1. 看護における研究の目的と意義 2. 看護研究のプロセス 3. 研究疑問（研究目的）の明確化 4. 研究疑問に応じた研究デザイン 授業方法：講義
第 3 回	看護学研究の概説(2)	1. 研究デザインに応じた研究方法 2. 看護研究における倫理的配慮 授業方法：講義
第 4 回	看護学研究の概説(3)	1. 論文の種類 2. 論文のクリティークとは 3. 量的研究のクリティーク方法 4. 質的研究のクリティーク方法 授業方法：講義
第 5 回	論文のクリティーク方法 (1)	1. 量的研究論文のクリティークについて発表 2. 論文内容の理解を深めるための討議 3. 量的研究論文のクリティークの課題 授業方法：グループディスカッション、個人ワーク
第 6 回	論文のクリティーク方法 (2)	1. 質的研究論文のクリティークについて発表 2. 論文内容の理解を深めるための討議 3. 質的研究論文のクリティークの課題 授業方法：グループディスカッション、個人ワーク
第 7 回	看護学研究計画書の作成 方法(1)	1. 研究計画書とは 2. 研究計画書の構成要素 授業方法：講義
第 8 回	看護学研究計画書の作成 方法(2)	内容 1. 研究計画書の作成手順 2. 研究計画書作成の課題と展望 授業方法：講義

表 2 看護研究に関する 3 年次後半から 4 年次のスケジュール

時期	内容
秋学期ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護研究のプロセスについて</li> <li>・看護研究指導体制について</li> <li>・看護研究年間スケジュール（3 年次～4 年次）</li> </ul>
1 月看護研究ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護研究の学修目標</li> <li>・授業担当教員</li> <li>・看護研究の開始準備と基本的な進め方     専門領域の担当指導教員の決定方法を含む</li> <li>・看護研究スケジュール概略</li> </ul>

表3 領域・専門分野の配置

	1期生	2期生
領域	専門分野	
【トランスレーショナル看護領域】	・基礎看護学・感染看護学 ・がん看護学・慢性看護学 ・急性期看護・周手術期看護	・基礎看護学 ・臨床看護学
【ファミリーヘルス看護領域】	・小児看護学 ・母性看護学 ・精神看護学	・小児看護学 ・母性看護学 ・精神看護学
【コミュニティヘルス看護領域】	・老年看護学 ・在宅看護 ・公衆衛生看護学	・老年看護学 ・在宅看護 ・公衆衛生看護学

表4 領域配置決定までの段階

時期	内容
ガイダンス以降エントリー締め切り前日まで	各領域・分野ごとの説明会・相談会にて研究課題についての相談を行う
3月中旬	エントリー締め切り ・第1希望専門分野におうじて割り振りを行い、定員をオーバーした場合は、第2希望以降で移動可能な専門分野があるかを検討する。移動可能な場合は移動する。 ・第1希望専門分野の割り振り定員を超えない場合は、第2希望の学生を配置する。 上記についての作業を各領域・分野の定員に収まるまで検討する。 定員を超えており、移動先がない場合は、各領域・分野の教授が参加する会議にて調整を行う。
3月下旬	学生に所属領域決定を発表する 発表後各専門分野にて担当教員を決定する
4月以降	看護研究開始に当たり、担当教員を発表する

分野を配置するようプログラム化した。なお、事前課題として抄録を作成し、プログラムと抄録集を事前提示した。

発表は各ブース3グループとし、1グループあたり4名～6名として編成した。司会・タイムキーパーともに教員が務めた。

対面による口演であり、学生は緊張をしつつも発表のために工夫されたパワーポイント資料を用いて発表が行われた。また当初危惧された質疑応答も概ね活発に行われた。

3年生には事前にプログラムと抄録集が閲覧できるように準備し、各ブースのZoomURLを提示した。自宅からZoomを利用して参加し、

聞きたいテーマを自由に参加できるように設定した。

1期生の発表会においては、初めてのオンライン設定であったため、途中Wi-Fiの環境が悪くなり、音声聞き取りづらいなどのトラブルや、ミュートが外れていないことから音声が聞こえないなど混乱はあったものの、徐々にトラブル対処を行いながら終えることができた。2期生の発表会においては、前年度の課題を改善すべく取り組んだこと、教員・学生ともにオンラインでのやり取りに慣れてきたこともあり、大きなトラブルが生じることもなく終えることができた。

#### 4) 看護研究論文作成

看護研究論文の作成に当たり作成要領と原稿フォーマット学生に提示した。基本的な書式として、A4サイズ横書き、2段組、1段組の場合の文字数を1行40字、2段組の場合の文字数を1行20字とし、1ページあたり1600字として、10ページ以内（資料を含む）と設定した。項目は、表題、領域・専門分野と学生名・指導教員名、序論、方法、結果、考察、結論、引用文献、資料とした。引用文献の記載要領は、APA論文作成マニュアルに準じた。

看護研究論文は領域・専門分野ごとに整理し、CDに保存した。このCDは担当教員に1枚ずつ配布し、東邦大学習志野メディアセンターにも1部保管していただいた。

#### 4. 2020年度2021年度の看護研究の傾向

##### 1) 看護研究の種類傾向

2020年はコロナ禍であったことから人を対象とした看護研究は、2020年度では26件、2021年度では29件であり、文献研究が大半を示した。詳細は表5に記す。

人を対象とした看護研究のうち、2020年度においては、質問紙を用いた実態調査12件、インタビュー法を用いた実態調査8件、測定による実態調査1件、準実験研究は4件、記録調査1件であった。2021年度においては、質問紙を用いた実態調査11件、インタビュー法を用いた実態調査15件、準実験研究2件であった。

また、人を対象とした看護研究における研究対象者は、2020年度では、健康科学部学生対象14件、習志野キャンパスの学生1件、ケア対象者3件、看護専門職者2件、その他（在日外国人、市町村の作成資料など）5件であった。2021年度では、健康科学部学生対象8件、習志野キャンパスの学生2件、ケア対象者1件、看護専門職者12件、その他（美容師、市町村作成資料）5件であった。

##### 2) 研究題目の傾向

1期生・2期生の研究題目における傾向を大まかに整理してみた。

##### (1) トランスレーショナル看護領域

トランスレーショナル看護領域には、基礎看護学分野と臨床看護学分野が含まれる。

トランスレーショナル看護領域の研究題目では、看護学生を対象とした実験研究7件、コロナ禍における看護学生の意識・行動の変容に関する研究7件、看護介入の実際に関する研究7件、コミュニケーションが困難な対象者への看護の実際に関する研究5件、臨床看護のストレスや困難感に関する研究5件、看護学生への効果的な教育に関する研究5件、コロナ禍における看護の実際に関する研究3件、手術を受ける患者・がん患者の心理状況に関する研究3件、終末期看護の実際に関する研究3件などの傾向がみられた。

##### (2) ファミリーヘルス看護領域

ファミリーヘルス看護領域には、小児看護学分野、母性看護学分野、精神看護学分野が含まれる。

小児看護学分野の研究題目では、子どもの発達段階に応じた看護の実際に関する研究5件、障害を持つ子どもとその家族への看護に関する研究2件、ハイリスク児とその家族への看護に関する研究2件などの傾向がみられた。

母性看護学分野での研究題目では、女性の発達段階における症状改善に向けてのケアの実際に関する研究3件、育児期における母親の認知に関する研究3件、ハイリスク分娩の出産体験に関する研究2件、父親役割に関する研究2件、ハイリスク児と家族へのケアに関する研究2件などの傾向がみられた。

精神看護学分野での研究題目では、統合失調症患者、パーソナリティ障害患者への看護の実際に関する研究4件、精神疾患患者の退院・就労支援に関する研究3件、入院時期に応じた患者と家族への看護に関する研究2件、看護学生の精神障害者・精神病棟に対するとらえ方に関する研究2件の傾向がみられた。

##### (3) コミュニティヘルス看護領域

コミュニティヘルス看護領域には、老年看護学・在学看護分野、公衆衛生看護学分野が含ま

表5 看護研究の種類 (1期生・2期生)

		1期生 (2020年度)	2期生 (2021年度)
看護研究数		78件	64件
人を対象とした研究		26件 (33%)	29件 (45%)
研究方法	質問紙を用いた実態調査	12件	11件
	インタビューを用いた実態調査	8件	15件
	測定による実態調査	1件	—
	準実験研究	4件	2件
	記録調査法	1件	1件
研究対象者	健康科学部学生	14件	8件
	習志野キャンパス学生	1件	2件
	ケア対象者	3件	1件
	看護専門職者	2件	12件
	その他	5件	5件
文献研究		52件	35件

れる。

老年看護学・在宅看護分野の研究題目では、訪問看護師の支援の実際に関する研究6件、家族介護者の受け止めに関する研究4件、高齢者施設における支援の実際に関する研究2件、在宅移行期の支援の実際に関する研究2件、高齢者を尊重した看護に関する研究2件、認知症患者の意思・意向への看護に関する研究2件などの傾向がみられた。

公衆衛生看護学の研究題目では、健康レベルの高い住民を対象とした教育の実際に関する研究9件、医療機関における外国人への支援の実際に関する研究4件などの傾向がみられた。

##### 5. 看護研究における課題

健康科学部の看護研究は、3年次春学期の「研究方法の基礎」「看護研究入門」の導入により研究方法について学ぶことから始まる。看護研究入門は1単位15時間の科目である。そのため、看護研究の概要に留まらざるを得ない状況である。研究を開始する時点での学生の不安は大きく、看護研究を進めていくために指導教員が担う内容や役割は大きいものがあると推察される。4月に看護研究をスタートして、11月

末には看護研究論文の作成を完了という8か月間の間に完結させなければならないことは教員にとってもプレッシャーが大きいものである。学生が看護研究をよりよくスタートできるためには看護研究の基盤づくりを重視する必要がある。津本ら(2017)は、3年次の看護研究を行うための研究の方法論を学んでおり、その科目における課題として、「3年次の科目履修時においてはまだ卒業研究の動機づけが不十分である」、「教授内容について、質的研究においては内容的に、量的研究については統計解析の理解が不十分である」という問題点を明らかにしている。これらの問題は本学部の看護研究入門でも同様であると推察される。こうしたことから、2022年度からの新カリキュラムにおいては1単位30時間と時間数を増やし、演習を取り入れながら文献検索方法、文献のクリティーク方法、研究方法、分析方法、論文の書き方など研究のプロセスにおける基本的知識と技能を身に着けるための授業構成となるよう検討していく必要があると考える。

2020年度は33%の学生が、2021年度は45%の学生が人を対象とした看護研究に取り組んだ。人を対象とした看護研究を計画・実施するため

には倫理審査の承認を得る必要がある。この看護研究倫理審査会においては、1回で承認を得られる率は30%弱であり、再審査の割合がとて高いという現状である。再審査によって承認までに要する日数も増し、平均30日弱という状況である。人を対象とした看護研究のプロセスにおいて研究倫理は避けられないものである。ゆえに、研究倫理としてどのような配慮が必要であるか、学生だけでなく教員も常にブラッシュアップすることにより、学生の理解を深め研究倫理における適切な配慮にむけた指導が可能となる。そのためにこれまでの看護研究倫理審査会における審査内容を分析し、学生がどのような指摘を受けているかについて学生・教員ともに共有しながらブラッシュアップしていくことが望まれる。

看護研究は卒業後に本格的に取り組むものでもある。疑問に思った内容、さらに改善できることはないかとした疑問・問題に対して、問題解決思考を用いながら求める答えを導き出す能力は看護職者にとってとても重要である。このような研究によって導き出された結果が看護の質の向上につながるものである。こうした思考プロセスを学生時代に身に着けることはとても重要なことであると考え。ゆえに学生時代に看護研究に対する苦手意識をできるだけ払拭することができるように、そのプロセスにおいて大変なことは多々あるものの、得られた結果とそのプロセスはとても意義のあるものだと思うような研究指導を行えるよう、教員も精進していく必要がある。

## 引用文献

- Suzan K. Grove, Nancy Burns Jennifer R. Gray. (2013/2015). 黒田裕子. 中本高夫. 逸見功 (監訳). バーンズ&グローブ 看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成. 原著第7版. P3. エルゼビア・ジャパン株式会社.
- 津本裕子, 玉田明子, 宮本まゆみ, 小林裕太・ (2017) : 4年次科目「卒業研究」に対する

3年次科目「看護研究方法論」の問題点と課題・島根大学医学部紀要, 39, p39 - 44.